

# 5

## 将来像に向けた

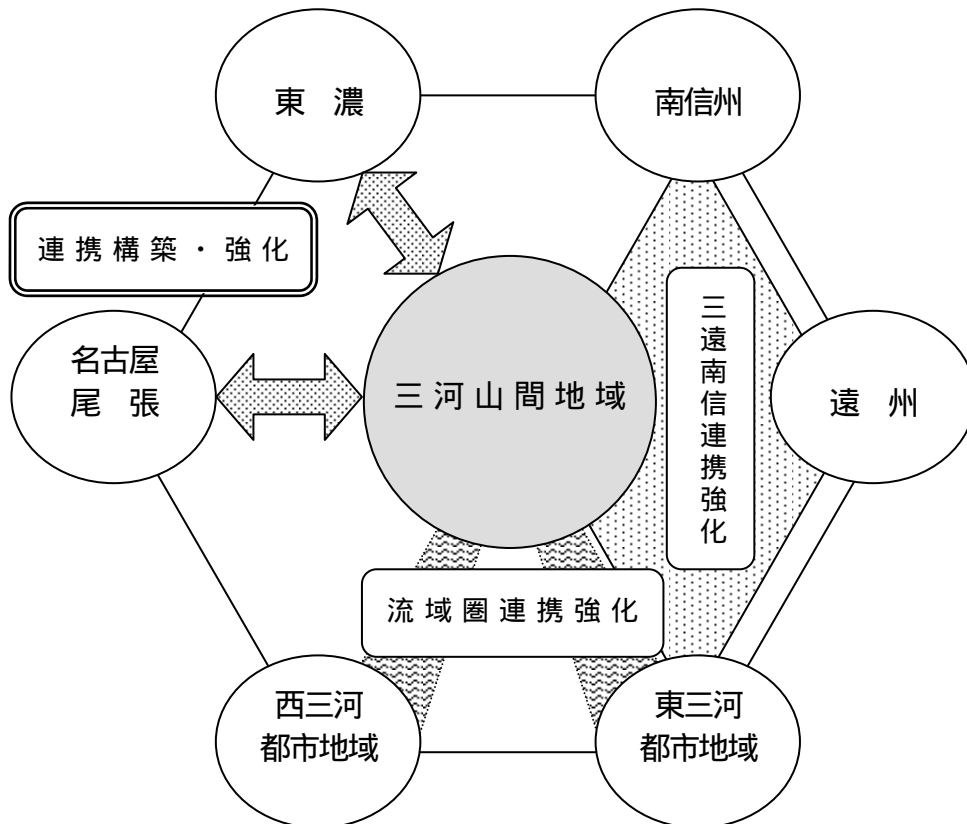
# 施策展開を強化する連携の促進

### [ 都市地域を含む広域的連携の促進 ]

めざすべき将来像に向けた施策展開は、三河山間地域内だけで考えるのではなく、都市地域との近接性というポテンシャルを生かし、都市地域を含む広域的な枠組みで行うことが効果的である。

三遠南信地域では、行政による三遠南信地域交流ネットワーク会議や三遠南信地域整備連絡会議、経済界による三遠南信地域経済開発協議会などの広域的組織が設置され、2007年度には「三遠南信地域連携ビジョン」が策定されるなど、既に都市地域と連携した取組が実施されている。また、豊川流域圏や矢作川流域圏では、環境保全活動を中心に、上流域と下流域が連携した取組も行われている。これらの地域では、こうした既存の取組をベースとしながら、一層の連携強化を図っていく。(関係部局)

一方、充実した都市機能を持つ名古屋や、尾張地域、岐阜県東濃地域との連携は脆弱なことから、今後は、各分野の施策展開の中で、これらの方面との連携構築や連携強化の可能性を積極的に検討していく。(関係部局)



## [ 多層的な連携の促進 ]

施策展開にあたっては、行政だけで考えるのではなく、地域住民はもとより、企業、大学、NPO、ボランティアなどを巻き込み、各主体が持つ強みを生かし合うことで、より効果を発揮する取組も多い。また、各主体による自立的な活動を促進していくことも重要である。県では、都市地域から三河山間地域への交流居住の取組の活性化を図るため、企業、大学、NPOなどと連携して「愛知県交流居住センター」を設置しているが、さらに大学から創り出される「知」を地域づくりに生かしていくための仕掛けづくりや、企業のCSR活動（社会的責任に関する活動）やNPO活動などを受け入れていくための仕掛けづくりを行いながら、様々な分野における多層的な連携の構築を促進していく。（地域振興部）

この仕掛けづくりのひとつとして、「三河の山里連携サポートデスク（仮称）」の設置を検討していく。また、現地における連携の拠点や地域活性化の拠点として、廃校舎などの遊休施設の利活用を検討していく。（地域振興部）

